



◎第五回行政協議會 第五回行政協議會長會議は十一月十五日午後一時より首相官邸に開催。

協議會側より大達關東行政協議會會長外八協議會長、相馬東京都參事官以下各參事官、政府側より東條首相以下各關係外關係官出席し、

當面の重要諸問題につき活潑な意見の交換を行ひ夕刻散會した、政府はさきに行政運営の決戦化の一方途として地方協議會長の指示權を強化擴大したが、この措置がとられて以來はじめての協議會長會議であり、また中央各廳業務の地方廳への徹底的委譲に關しても、その具體的内容については目下内務省を中心に策案を進めてをり、ことに軍需省の地方機關たる軍需監理部と地方協議會との連繫緊密化等も目下問題になつてゐるので會議の成果は如何なるべきか。

◎交通學會の研究 去十月十六日神戸神港ビルディングに於て東

雜 報

亞交通學會の研究が發表せられたが前東京帝國大學講師三輪清一郎氏が「總力經濟戰と交通」と題し序論として 一、總力戰經濟に於ける交通一般に關する所感 二、交通の政治性、綜合性、機動性に關する再檢討本論として 一、交通機關の適正操業度並に現時操業度 二、總力戰經濟に於ける交通の質の變動 三、奢かされざる輸送體制の確立等につき貴重なる研究の發表があつた。

◎東京新聞社と社長 本邦創始の社團法人の組織に依る新聞社として發足せる東京新聞社では去九月一日理事會の議を経て元内閣書記官長貴族院議員遠藤柳作氏を初代社長として選定し主務大臣の認可を得たので十三日同社職員一同に對し就任の挨拶を行つた。

◎中野正剛氏 東方同志會總裁衆議院議員中野正剛氏は十月二十七日自宅澁谷區代々木本町八〇八に於て日本刀を以て割腹し自殺を遂げた、

◎常務理事佐上信一氏 本會常務理事(大日本防空協會常務理事)佐上信一氏は九州旅行の歸途十一月二十九日午前三時頃姫路神戸間汽車中に於いて心臓麻痺を起し兵庫縣立病院にて手當を施せしも其の效なく午前五時薨去せらる、氏は明治十五年十二月廣島縣佐伯郡五日市町に誕生せられ、同四十三年帝國大學法科を卒業文官高等試驗に合格し直ちに東京府兼内務廳となり、爾後鳥取熊本兩縣理事官内務書記官、(土木局道路課長、内務參事官兼書

五三

記官、内務監察官を歴任し次いで内務省神社局長、明治神宮造營局長に又造神宮副使に任ぜられ、轉じて岡山、長崎兩縣知事に就任、更らに内務省地方局長を経て京都府知事となり昭和六年に北海道長官に任ぜられしが同十一年四月後進に途を披く爲めに官を辭せられた、大日本防空協會の設置せらるゝや入りて常務理事となられた。尙ほ大正八年三月一日本會の創立せられたる當時内務省土木局道路課長たりしが故に幹事となり本會をして恒久的な存續社團法人たらしめたのである、大正十三年六月一日本會理事に擧げられ重任現今に及ぶ昭和十五年十月二十四日山田英太郎氏副會長となるや其の後を襲ひ常務(經理)理事となられ終始本會の爲めに盡瘁せられたのである。尙ほ今回従前の功績に對し從三位に叙位の恩命に浴せられた。

- ◎土浦驛の慘事 茨城縣土浦驛に於て十月二十六日十八時過ぎ汽車の三重衝突事件があり死者百六十名を出した慘又慘、
- ◎鹽澤海軍大將 軍參事官海軍大將鹽澤幸一氏は十一月十七日午後九時急性脳臟壞死にて薨去。
- ◎近刊圖書雜誌 (寄贈交換)
- ◎河川 (第二卷一一號)
- ◎土木學會雜誌 (第二九卷一〇號)
- ◎セメント統制會誌 (第一卷七號)
- ◎土木滿洲 (第三卷五號 九、一〇月)

- ◎水道協會雜誌 (第一二六號)
 - ◎電氣通信學會雜誌 (第二七卷一〇號)
 - ◎港灣 (第二一卷一一號)
 - ◎土木雜誌 (港灣特輯第一九卷九號)
 - ◎道路 (第五卷一〇號)
 - ◎鐵道軌道統制會報 (一〇、一一月號)
 - ◎汎交遍 (一〇號)
 - ◎新民 (第三八編一〇號)
 - ◎發送電 (第三卷一〇號)
 - ◎學術報告 (第一號)
 - ◎土木試驗所報告 (第七二號)
- (福島彌六氏)最近の國產セメントの成分に關する試驗及び研究

- ◎三田學會雜誌 (第三七卷九號)
- ◎大大阪 (第一九卷一一號)

訂正

本誌前號十八頁上段末行 反徒各所はるに。至る同下段一行目の
 ××× 至るは反徒各所の誤植